

第6回日加宇宙パネルの開催結果について

平成10年12月16日
科 学 技 術 庁

1 日程

平成10年12月7日（月）、8日（火）

2 場所

東京（科学技術庁及び宇宙開発事業団（NASDA）会議室）

3 出席者

（日本側）

科学技術庁： 池田研究開発局長、吉村調査国際室長、渡辺調査国際室室長補佐、
柳島宇宙利用課課長補佐他

その他、文部省宇宙科学研究所、郵政省、通商産業省、運輸省、外務省、宇宙開発
事業団（NASDA）、海洋科学技術センターから参加

（カナダ側）

カナダ宇宙庁： ジルー国際部長他11名

カナダリモートセンシングセンター： シングロイ主任研究員

カナダ大使館： ツァン参事官他

4 結果概要

- 全体会合において、日本及びカナダの宇宙開発の動向についてプレゼンテーション、意見交換を行った。また、新しく宇宙ステーション分科会を設置することがカナダ側より提案され、了承された。また、カナダ宇宙庁（CSA）ポワリエ局長及びNASDA高松副本部長を同分科会の共同議長とすることを合意した。
- 宇宙科学、微小重力、地球観測、新宇宙技術、宇宙ステーションの5つの分科会を開催し、既存の協力課題の報告や新規の協力課題の検討を行った。
- 次回パネルは来年秋、カナダにて開催することとなった。

5 各分科会の概要

（1）宇宙科学分科会

- ・ EXOS-D「あけぼの」に関し、カナダ側が引き続きデータ受信を行うことで合意した。
- ・ “火星探査機「のぞみ」による火星上層大気の研究”を新たに協力課題として追加し、1999年10月の「のぞみ」の火星到着までは観測計画の検討を、到着後は観測データの共同解析を行うことで合意した。
- ・ カナダのsmall payload プログラムである極軌道衛星（POP）に宇宙科学研究所が機器を提供することを提案し、CSAにおいて協力の可能性について検討することとなった。

(2) 微小重力分科会

- ・ 1997年3月に京都で開催された第4回日加微小重力科学ワークショップの報告が行われ、2000年5月に第5回ワークショップを行うことを合意した。
- ・ NASDAよりJEMの開発の現状、CSAより商業利用計画についてそれぞれプレゼンテーションが行われ、それぞれのプログラムの中における協力可能なハードウェア、施設の特定について意見交換を行うことを合意した。
- ・ 効率的に相互の実験機器を利用するため、宇宙実験の利用機会共有の将来における可能性について議論した。
- ・ 人材交流の重要性を確認し、継続的に発展させることに合意した(NASDA及びCSAにおいて、依田氏、ヘリング氏をそれぞれ今年派遣している)。

(3) 地球観測分科会

- ・ 日本側の環境観測技術衛星(ADEOS-II)、陸域観測技術衛星(ALOS)等、カナダ側のRADARSAT-II等について、その計画、データ利用研究の現状及び協力の可能性について情報交換を行った。
- ・ 日本側より「氷河崩壊観測に関する共同研究」を新たに課題として検討するため情報交換を行うことを提案し、カナダ側にてコンタクトパーソンを指定することとした。
- ・ カナダ側より「RADARSAT及びJERS-1のデータを活用した災害監視(火山活動、地滑り)」を新たに協力課題として追加する提案があり、コンタクトパーソンの指定を含め、日本側において検討することとした。

(4) 新宇宙技術分科会

- ・ 「光衛星間通信」について、双方にて協力可能な内容を継続して検討するとともに、双方が新たなコンタクトパーソンを指定することが合意された。
- ・ 通信総合研究所(CRL)の行う技術試験衛星VII(ETS-VII)の後期利用段階の実験について、協力の可能性について検討することが合意された。
- ・ 宇宙探査に係る技術、新材料、構造制御/解析、小型衛星等に関して、情報交換の可能性等について検討を行った。

(5) 宇宙ステーション分科会

- ・ NASDA及びCSAよりそれぞれの国際宇宙ステーション計画の現状について報告し、協力可能な活動について情報交換を行った。
- ・ JEMの遠隔マニピュレータシステムの訓練協力、インストラクターやコース設計者の交換、HTV(補給機)の運用及び解析等について、協力の可能性を検討することを合意した。

(参考)

1 カナダ宇宙庁 (C S A) について

- ・関係省庁にまたがるカナダの宇宙活動を合理化するという目的のため、1989年3月に設立。
- ・地球観測、有人宇宙飛行、衛星通信及び宇宙科学技術計画の実施、また通信研究センター管理の衛星通信計画及びカナダリモートセンシングセンターの地球観測活動に関する政策調整を所掌。

2 カナダリモートセンシングセンター (C C R S) について

- ・リモートセンシング技術及び応用の開発・促進を行う中心機関であり、1971年に設立。